

重点品目 なす

1 生産状況（農林水産統計）

	H29 (2017)	H30 (2018)	R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R3 /H29	目標 (R5)
栽培面積(ha)	134	131	126	124	124	92.5%	140
うち冬春	24	23	21	21	21	87.5%	25
うち夏秋	109	108	105	103	103	94.5%	115
生産量(t)	5,330	4,890	5,130	4,890	5,100	95.7%	5,700
うち冬春	2,770	2,420	2,350	2,270	2,330	84.1%	2,900
うち夏秋	2,680	2,470	2,780	2,620	2,770	103.4%	2,850
産出額(億円)	20	20	19	19	18	90.0%	

2 現状

	冬春なす	夏秋なす
[生産面]	天敵利用技術が定着している。 炭酸ガス施用技術の導入が進んでいる。	出荷期間が7～10月と短く複合経営が多い。また、水田での作付けが増え、自動かん水装置等の省力技術が普及している。
[販売面]	高い栽培技術と共同選果による品質の高さが市場から評価されている。	単価は安定し、近年は契約栽培も増えている。
[担い手]	高齢化により担い手が減少している。	初期投資が少なく新規栽培者が増えている。

3 主要産地の面積（R3（2021）年）

岡山市(34ha)、真庭市(13ha)

4 振興方針

〔冬春なす〕

- ・担い手の確保・育成による産地規模の維持・拡大
- ・効果的な天敵利用及び環境制御技術を活用した収量、品質の向上

〔夏秋なす〕

- ・水田での作付け推進
- ・省力化技術等の導入による収量、品質の向上

